

漫録

○自覚と経済

茲に掲ぐる一篇は學員指田義雄氏が去る七月三日開催の中央大  
学経済学会に於て講演せられたる速記にして同氏の訂正を請ふ  
て掲載することとせり若し夫れ其標題に至りては記者の恣に附  
したるものとす請諒焉（記者識）

東京米穀商品取引所理事長 代議士 指田義雄

諸君私が経済学会の講演会に出席して諸先輩に打ち混じまし  
て学術的の講演をするといふことは一体柄にない、御承知の通  
り私は繁雜なる実務生活に活動して居りまして特に昨今繁忙を  
極めて居りますから今日出席することも独り柄にないことで  
あるのみならず時間の都合も全く未定で何だか判らない、随て  
演題も未定として置きました処、先程幹事の方より演題をお尋  
ねになりましたが、何を申し上げるか判らない、蓋し演題は最  
終まで未定であうふと思ふと御答した次第であります、併し私  
が此処へ参りまして一番感じましたことは今日は如何にも梅雨  
霽れの好天気である休暇の半日を此講堂に暮される所の多数の  
諸君が如何に我邦の経済問題に対して深き趣味を有せらるる  
か、如何に御熱心であるかと云ふことに深く感激した結果敢て

此演壇に立ちました次第であります、故に私の申上げることは何を申し上げるか判らない、何処で結論に到着するか判らない、強いて申上げれば先刻のやふにあなた方から簡単な声が出たり若くは欠伸、居眠りが出た時が此壇を下る時でありまして此点だけは寧ろ未定でないであります諸君が経済問題に興味を持たるといふこと之れは何時の時代でも必要であります。特に、歐洲戦争後に於きまする経済問題位吾々の生活に極めて接触する所の趣味のある問題はなからうと思ひますあなた方個人の生活問題又は対内的社会問題から考へても、又世界的国際間の関係から考へても精神上の問題、思想上の問題より物質的問題に至る迄、或は軍備の問題も政治の問題も国家各般の事、総てを通して此経済問題に関係を有せざるものなし即ち人事挙げて経済問題を中心として解決すべき筋道のものであらうと私は考へて居ります、故に私は経済問題位難かしい問題であつて而して趣味ある問題として吾々の最も大に研究しなければならぬ所の偉大なる意義を有して居る問題はなからうと考へて居ります、経済問題の学究的のお話は所謂私の柄にない所であり、又僅かな時間でお話し申上げることが到底六個敷ことであると考へますから特に現在の経済社会に於て最も重要視され目下切迫して研究されて居る所の問題の一二をお話して見やうかと思ひます。而して私は経済界の問題でも其他総ての人類生存上の問題に対しても常に自覚論を主張するものであります、則ち此場合にも又根本觀念として自覚論を持ち出さねばなりません。

只今山田先生からコーポレーションのお談、共同といふお話が出た、成る程共同といふ根本精神が世界的に發揮することになれば如何なる問題も此共同原理に依つて解決されるのでありませう、併し共同といふことは即ち複数でありますから共同といふことの眞理を發見するには先づ一人である：単位である所の自我を研究しなければならぬ、己れといふものに対しての自覚：己れに対する理解といふものを持ちませぬでは共同は到底行はるるものでなからうと思ひます、二本の足で歩くのに一緒に二本の足を前に出せば顛倒して了ふ、片方の足を出さうとするならば須く一方の足で自家の地歩を占め、自家の立場を克く諒解して左の足にウント力を込め右の足を出しても決して倒れぬといふだけの自覚が起つてそれから右の足を前に進めねばならぬと思ひます、是れ即ち私の常に主張する自覚論の要旨であります、例へば思想の問題乃至は労働問題に致しましても、今日日本は何んな立場に居るか、東洋は何んな形勢であるかといふことを知らないで一番先に歐羅巴の方ばかりを見て了つては足許が眞暗となるのであります、想ふに御維新の際の所謂新人は何でも彼でも西洋の文明に心酔し丁髷に結つたハイカラが歐羅巴から形式的文明を輸入した傾向はなかつたであらうか、是等の人人は東洋の豪傑など到底世界の風潮を解せない、歐羅巴に行つて見ると其文明は斯く斯くであるから日本も亦斯く斯くせねばならぬと云つて、足許を見ないで歐羅巴の方へ先に進んで了つた結果、支那のことも西伯利亞のことも輕輕敷取扱はれ足許の研究を今頃になつて行つて居るのではあるまいかと思ふ

のであります、私は斯く云ひたい対外的国際關係に於ても日本自身を先づ諒解せねばならぬ、東洋を諒解せねばならぬ、又經濟問題としては先づ我邦の經濟界を諒解せねばならぬ、更に勞働問題に付いても勞働者自身が夫れ自からを諒解せねばならぬ、若し又學生と學校の關係ならば、學生は學生自らを、學校は學校自らを諒解せねばならぬと思ふのであります、則ち吾人は常に己れの行つて居ること、己れの考へて居ることに何れだけの欠点があると云ふことを反省し而して其欠点が発見された時は即ち成功されたのである。希くは諸君は己れの欠点を見出すことに努められたいと思ふ、此己れといふものに自覚が起つて茲に初めて社会共同の精神が発揮されて来るのであります、經濟問題の上から考へて見ましても果して我國の經濟界にそれだけの自覚が起つて居るであらうか、歐羅巴戰爭が済みましたならば東洋には必ず經濟上激しい戦が起るのであふうとも誰も彼れも言つて居りますけれども果して東洋の國民か何れだけの自覚を持つて居るか、歐羅巴戰爭に対抗するだけの戦備が出来て居るであらうか、斯様なことを考へて見ますと甚だ心細い感じが致します、殊に私は不斷から東洋中心市場論者と云ふので冷かされて居りますが私は斯く信じて居ります、東洋に若經濟上の戦が起るならば地理的關係から申しましても、貨幣制度の關係から申しましても何うしても日本か中心市場にならねばならぬ、吾吾經濟界に關係ある者は是非とも日本に東洋の中心市場を建設するだけの覺悟を持たねばならぬ、交通の点から考へても何れの所から考へても若支那が商權争奪の中原と相成ると

すれば一日も速に日本に中心市場を建設して置かねばならぬと考へて居ります。然るに一体日本の商賣取引の状態は何んな状態であるか御承知の通りの国柄でございまして生産品の上から申しましても余り大量な生産品を持つて居らなかつた、其多量の生産品は米其他の農産物に過ぎない、米は成る程分量は多いけれども之れは単に一部の食糧に供するだけであつて輸出向には相成らぬ、併し一番大量の取引のあるものであるから日本に於て市場取引の一番古く發達したるものは米である、米の取引は大坂堂島若くは北浜に於ける取引に遡ると約三百年以上になつて居ります、斯の如く日本に組織ある商取引の起つたといふのも此米一つであつて其一つの米か三百年前堂島北浜といふやうな所に初めて行はれた、其起源を調べて見ると御承知の通り各藩の歳入といふものは総て米で、詰り年貢は米納せしむるものでございまして各藩の米を処分する為に大量の取引を行はねばならぬ、此事情から發達しました所の我國の取引市場でありまして如何にも其組織は不完全なものである、私は現に東京に於ける米穀並に商品の取引所を主宰して居るのでありますけれども其内容は大に改善進歩の余地ありと自覚して居る、併し三百年來やつて居りながら何等改善の跡を見ずして何うやら恣ふやら我慢が出来た所以のものは取引所理事者の自覚なかりし事も一原因であるが、社会も亦之れを侮蔑し敢て之を利用することを避けて居た罪も多しと思ふ、然るに昨今取引問題が朝野有力者の間に論議せらるる様になり、諸君の様な学究的の方向にも興味を以て之れを研究さるる機会が多くなつた、其動機を考

へますると、時局の影響にて経済界は異常の殷振を極めたが、戦争が済んで見ると彼方此方に破綻を生ずることになった御承知の通り砂糖が第一番に躓いて政府に救済をして貰はねば解決が附かない、有価証券が遣り損つてシンジケートを造つて政府の援助を乞はねばならぬとか、生糸の市価が暴落して救済資金を政府に要請するやうに相成つた、米に至つては尚更のことです。終に米穀法に依る米の買上となつた、是等経済界の変動は其原因種あるに相違ないが、組織的取引市場の不完全であつた事が、最大原因の一到に数へねばならぬと確信する次第である。蓋し大量の取引には是非規律あり節制ある取引市場の組織が心要であるが、日本人には従来さういふ大量取引の経験がないのでありますから、商売人も矢張島国根性で局部に割拠して集团的に共同取引の市場を發達せしむることを喜ばぬ、甚しきに至ては或る場合に政治家が取引市場に迫害を加へた方が却つて宜いであらうと考へた事も少くない、現に前内閣の時分に先輩仲小路君は米価を調節する為に取引所に対しまして抑圧手段を取りましたが此の如き政策は別に仲小路君の新發明でも何でもない、徳川幕府時代にも大部ああいふやうなことを行つた、例へば大阪の豆腐屋が馬鹿に儲け過ぎる、豆腐が高くて仕方がない、開んな高い豆腐を売る奴は縛つて了へといふので時の何の守とかいふ奉行が豆腐屋をふん縛つて牢へ打込んで了つた、ソコで豆腐屋は之は危い豆腐の商売をするとフン縛られる、俺も豆腐を造ることは廃さうといふので豆腐屋が皆廃業して了つた、さう其翌日から大阪では豆腐を食ふことが出来ない誠に困るとい

ふので奉行さんにお願ひして終ひには豆腐屋の縛めを解いて牢から出して貰つて茲に初めて大阪市民が安して豆腐を食ふことが出来た、仲小路君も米を買つてはならぬ、米を買へば縛るといふので米屋は驚いて了つて米が買へない、新聞なぞでも米を買ふと国賊の如く言はれるので米を買はなくなつたから米が東京に集まつて来ない、ソコで束れば束る程値が高くなつた、諸君経済上の原則は即茲にある、所謂水の低い所に附くが如く物資は高い値段の所へ集まつて来るに相違なく、集まつて来るから安くなつて来るものであります、之は昔話であります。が例の徳川家康の小田原攻の話で私は先年伏見宮殿下の御前講演で此のお話を致しましたから、既に御承知のお方もありませうが徳川家康が小田原攻の時、其の前年に本多佐渡守に言ひ附けて愈々近い内に小田原攻をやらねばならぬから、軍用米を沼津へ集めるといふ命令を下した、本多佐渡はソコで沢山の軍用米を沼津に集めた、家康は愈々小田原征伐となつて小田原に這入つた、佐渡は沼津に集めてある軍用米を小田原に取寄せやうとした所家康は之を許さない、それには及ばない、幾らでも買へと言ひ附けた、佐渡は恁んな米のない所で米を買たら非常に高いものに附くのであると言つたが家康は幾ら高くてもかまはぬから買へと命ぜられた、佐渡は沼津に軍用米が用意してあるのにそれを持つて来ないで買ふといふのは不思議だと思つたけれど、も指図であるから盛に買始めた、幾ら高くてもドンドン買ふ、幾らでも売れるといふので全国からアノ交通不便の場合に於て……今でもさうであります。が馬の背船の腹は勿論有りとならぬ

る手段を用ひて米が集まつた集まつた、運賃をかけても小田原へ持つて来さへすれば非常に高く家康が買ふから持つて行けといふので諸国から米が集り終に小田原に米の山を築いて了つた、ソコで今度は二束三文の値段になつて了つてそれで嫌なら持つて行けと言はれても、今更四国九州へ持つて帰る訳に行かないから幾らでも売つて行くといふ風で安く豊富に米を買入れることが出来た、即ち徳川家康は経済上の原理に一隻眼を有つて居つた、沼津の米に手を附けずに小田原で買つたといふことは家康の経済政策でありまして小田原の長い間の滞陣中安い米を豊富に食ふことが出来た、恰度之と同じ理窟であつて仲小路君の時代には米を買ふ者は縛られるので買ふ人がない、従つて米が市中に集まつて来ないから何うしても高くなる、仲小路君が嚴重なる規則をお出しになればなる程高くなる、米がないから其値段が自然に高くなるのは経済上の原則であつて詰り先に申し上げた徳川時代の豆腐屋の一件と同じであります、之は畢竟如何に大政治家であつても一体日本の取引所といふもの……商売取引といふものに本当の理解を持つて居らないからいろいろなることを行つて見て失敗して居ります、併し之れは独り為政者の罪のみではありません、取引所経営者の自覚に大に足らざる点が、認められて居ることは私の深く信じて疑はざる所であります。遡つて大隈内閣の政策を見ますに当時米が一石十円か十一二円して居つた、これでは実に農村が立行かぬ何とかして米価を吊り上げたいものであるといふので私も其時米価調節調査委員といふものを仰せ付かつて農商務省の一室へ参つてい

ろいろお話を承はつた、其当時のお話にはせめて一石十六七円位に何とかしてならないものであるか、何とかして十六七円にしたいものであるといふのが時の農商務大臣河野廣中君からの御託宜であつたのである、併し他に方法がない、買ふのが宜からうといふ話で政府がお金を出してお買ひになつた、お買ひになるといふ噂がある時から十四五円位に騰貴致しました、併し買つて了つたら直ぐ値が下つて了つた、それは其筈である、重箱の中へ卵が十個しか這入らないのに十一入れやうとしたとて這入らない、何れの隅へ転がして行つても重箱の中へは這入らぬ一つ余る筈である、政府がお買上げになつても何時売出されるか知れぬといふ心配があるから市場では決して高い値を附ける筈がない、重箱の外へ卵を出して了つたら知らぬこと一つ余つて居る卵を何処へ入れたら宜からうと転がして見ても入れることが出来ないと同じであります、幾ら政府が米をお買ひになつて見ても海の中へでも放り捨てたら格別買上げて保存して居りましたのでは結局市価を吊上げる方法にも何にもならない、今度の内閣でもいろいろ御心配になつて外国米など買入れ何うかして米の値を下げたいものであると方法を講じて見たが或程度迄は市価を抑へましたが大勢には逆行出来ぬ、今度は食糧を充実する目的で米穀法が出て実行致しました、民間では之れに依つて米価は騰貴するであらふと期待したが人為で……一人や二人の力ばかりでは大いなる数量を持つて居ります所の物価を急激に自由にしやうなどといふことは到底出来る筈のものでない、茲に初めて取引市場といふものの機能を發揮することにな

つて来ます、取引市場の機能は今更申す迄もございませぬが要するに需給の調節を図り市価の公正なる基準を決定するのである、此間でも私の主宰して居る深川の第三部市場で小麦の買占が行はれた、小麦を買占めるなんて怪しからぬと皆さんが御攻撃に相成つた、即ち七円のもの十四円にも暴騰した、然るに買占めた其人は大なる損をして違約処分を受けたが、其お蔭で東京へ沢山小麦が集まつた、さうして損をした部分だけ国民は安いものが食へるといふことになつたので饅頭の好きなお方は買占めた人に彰徳表を奉つても宜いと思ふのであります、恰度大隈内閣の時分、仲小路君の場合にはそれと逆なことを行つて居ります、之は何うしても経済上の働きの、経済学上の真理を研究して適当なる政策を行ふべき筈であつて、一時の行政上の手心や感情で調節しやうといふことは到底出来ないと確信して居ります。要するに為政者も取引業者も一般国民も夫夫自己の欠陥を自覚する必要全く茲に存するのであります、則ち現在の経済問題特に商売取引の問題に就ては東洋に中心市場を造らねばならぬといふ自覚が国民の間に起つて居れば此のことは疾に解決されて居らねばならぬ、日本に於ける取引市場を如何に建設して行くかといふことに就き政府のみならず一般識者の間にモ一少し研究されねばならぬ、然るに是迄は取引所といふとゴロッキが相場師のみの集団であつて彼れは特殊部落でもあるかの如き考へを持つて居る、敬して遠ざけるではない敬せずして遠かる傾向のあつたのは誠に遺憾に堪へない、諸君の如き趣味を以て研究さるる方に今一段の御諒解を得たいと存じます、自

分は前申す通り其理想とする所は甚だ微力ではありますが何うかして三百年來発達した我邦の取引所をして時代の進運に伴つたものにして見たい則ち私が常に口僻に申して居ります定期の現物化、現物の定期化といふやうに定期と現物をシツクリと接近さして見たい、而してモット意義ある取引を為させて見たいのであります、之れは米の取引ばかりでない練糸や生糸のことも考へて居りますが、私などの郷里では養蚕をして居るものが多いのであります、然るに其養蚕の状態を考へて見るといふと養蚕事業と製糸事業とは殆んど没交渉であります、蓋し生糸は我邦貿易の大宗である而して其原料を供給する養蚕家は百姓の片手間になつて居りました何等の組織も働いて居りませぬから一向商品化して居らず私の埼玉県などでは僅かな金を持つて大きな袋を提げた繭買連が爺さん婆さんを口説いて繭を買入れて行つて製糸家の手許へ売つて儲けるのであるから、何となく養蚕家と製糸家の間に連鎖もなく製糸家は養蚕家をいぢめて甘い汁でも吸ふやうに誤解されて居る、偕て其製糸家は何うして居るかといふと自分の所で糸を造つて横浜へ持つて行くが外国の事情なんか余り研究もせず貿易問屋のお指図に委せて何ういふ所へ仕向けられるのか判らない、又之れを買入れる米国の機業家の方でも完全なる連絡を我邦の製糸家に持たない、単に中間のブローカーが之はベケとか合格品であるとかいふことを決定して、製糸家は直接に商取引をなすの便宜を欠いて居る、之れは製糸家の資力に不十分なるものもあるが為め已むを得ざる実情なるに相違なきも兎に角之れが現在の生糸取引の状態でありま

す、之が日本の貿易の大宗たる生糸の取引の実際とするならば如何にも不自然の感がある、又片倉組であるとか、何何製糸場であるとかこちらで造つた糸を横浜へ持つて参つても片倉組製糸として亜米利加に輸出さるるのではない、皆レッツテルを刺がされてさうして其処の商館で以て組み合せて外国へ輸出されて居るのでありますから、亜米利加の機業家から見ますと日本では何といふ製糸場の糸が一番良いのであるか、何れだけの産額を有して居るものであるか、此糸は何処の地方で出来た生糸であるかといふことが少しも判つて居らない、唯間に這入つて居るブローカーの名前に依つて取引されて居る、さういふ状態であります、併し其間に悪いことをされて居るとは決して申すのではないが少くも我邦貿易の大宗である生糸取引の状態が之ではならぬ、製糸家は唯糸を造れば宜い、さうして糸になつたものを横浜へ持つて行けば宜いといふので何処の国へ如何なる品質のものが向くのであるか、何ういふ機業家が此糸を使ふか又如何に改良すれば宜いかといふやうなことは一切没交渉であります、養蚕家は養蚕家、製糸家は製糸家さうして問屋さんは問屋さん亜米利加の機業家は機業家で個別別の立場にあつて商取引が行はれて居りますが恣んな進歩しない取引はあるまいと思ひます、之は何うしても改善しなければならぬ、養蚕家が繭を造つたならば繭は商品であるといふ感じを以て取引せねばならぬ、製糸家も亦糸を製したならば製糸は亜米利加の何処へ行くか、亜米利加では何ういふ糸を要求して居るか、如何に品を改良すれば宜いか位は研究せねばならぬ、唯糸を造つて横浜へ

持つて行くといふだけではいけない、要するに生糸の問題に關しても養蚕製糸家並に貿易業者共に大なる自覚を起し組織ある商取引の機関を完備せねばならぬと考へて居るのでありますまだ欠伸は出ませぬでせうか、実は私も友人の婚禮があるので余り時間を持ちませぬが……是等の点も私は我國の經濟界に大なる自覚を喚起してあなた方と共に之を研究して見たいと思つて居ります所の一大事業であります、又綿糸の取引に就ても同様な考へを持つて居ります、即ち意義ある組織的市場を建設したいと計画して居ります、是等のことは内容は申し上げませぬが要するに我經濟界に如何なる欠陥があるかといふことを考へたならば先づ商取引に就て組織ある市場といふものが完備して居らぬといふ大なる欠陥があります、此欠陥を補ふにあらざれば到底東洋の經濟戦には勝てないと考へて居ります、次に之れに關連する問題で我邦の經濟界に何ういふ欠陥があるかといふことを見るに金融機關の問題である、此処には大蔵省の方がお出でになつたり、法制局のお方がお出でになるやうであるが日本の金融機關は大体預金銀行であつて内には多くの株主を控へて居りますから昨年の經濟界の変動の場合に於きまして市場に波瀾が起つた際には自家防衛の必要上急激に資金を引締めて了はなければならぬ、之は已むを得ないであります之が為め經濟界は一層急激なる動揺を免れませぬ、故に更に進んで日本の金融機關をしてもう少し經濟市場に近接したる組織的の進歩あらしむることを要求したいと思ひます、即ち取引市場と金融機關との中間に何か連絡的機關、其中間に働く所の機關を私は要求

したいと思ふのであります、私は今の取引市場は殆んど経済界から孤立して居ると思ふて居ります、一朝金融機関に於て資金を引締めらるれば全く孤立無援の状態に陥るのであります、之ではいけない、何うしても金融機関と市場を結び付ける信託事業も宜しい、信託事業と同じ働きを併せ行ふ所の一種の機関銀行も必要でございませう、何か市場と金融機関との間に中間機関を建設する必要があるはせぬか、先般の議会で彼の取引所法改正案が提出された当時学者方がお寄りになつて調査会を開きになつて取引所制度は何うしても会員組織にしなければならぬ、といふことであつたが会員組織にしやうとしても信託機関、金融機関が備つて居らない、市場は経済界に孤立であつては会員組織の理想は容易に実現されませぬ、会員組織に成る重米利加の組織は御覧の通りであつて種々な機関に依つて働きをして居ります、是等のことを申上げると欠伸の種と思ふから申しませぬが要するに是等の欠陥が日本にはあらうと思ひます、種々なる方面に於て日本はまだ……之は島国で小さい商取引で行つて居つた結果でもございませうが商売取引が一向組織立つて居らない、レールを敷いて居らない、何うしても此際等は等の欠陥を補はねばならぬとの自覚を有して居ることを以て今日の商取引のお話は打切らふと存じます

又唯今は山田先生より新思想のお話しもございましたが要するに総ての方面に自覚が欲しい、思想問題を論するに當つても先づ自覚せねばならぬ、労働者も自覚せねばならぬ、権利は義務觀念の旺盛なるに因つて威力あるものである、義務觀念の旺

盛でない権利は威力ないものと考へます、此言葉は未だ洗練されて居りませぬが要するに義務觀念の強い人だけ其人の主張する権利は夫だけ威力があるものである、私は深く信じて居ります、能く自分を知り、自分が如何なるものであるかといふ自覚が起つて初めて其人に対する各種の問題は解決されるのであります、之れは一個人の生存問題のみではない、國際的の軍備問題の如きも其通りであつて自家の立場を自ら諒解し同時に國際關係に於ても諒解せられてこそ初て問題は解決するのであります、要するに一人の自覚は一国の自覚となり一国の自覚は延いて世界の自覚となる、嗚呼一人の自覚其力偉大なる哉であります、茲で一つ私は極めて卑近なる自覚の話をしませう、私に一人の老祖母がりましたお婆さんは、私の幼少の時私の世に立つ心得といふものを私に話して呉れました、私は之れが脳裏に浸込で忘れることが出来ませぬ、之はお婆さんの作つた話では無論ありますまい、之は昔から伝はつて来た話でありませぬ、其話は或る所に鏡といふものを知らない所がある、其所に大層親孝行な息子があつた、父親が死んだ所が領主様が息子をお呼出しになつてお前は親孝行であるから何か欲しいものがあつたら何でもお前に遣らうと言はれた、息子は私は別に食ふには困りませぬ、自分に働いて食ふ位のことにはするから欲しいものはありませぬとお答へすると、何かあるだらうといふ仰せであつた、ソコで息子は唯死んだ父親に会はして貰ひたいと申上げると、殿様は困つて了つた、死んだ父親に会はせるといふのは無理な話である、ソコで殿様はお前は父親に似て居るかとお尋ね



になると世間では父親に生写しだといふ話でありますと申上げると、それでは之を遣るといふので手函から鏡の帛紗包みを出されて、之は人に見せるな、大切に仕舞つて置け、之さへ見れば父親に会へるとの仰せに息子は喜んで家へ歸つて土蔵の長持の中に仕舞つて置いたそふして行つて蓋を開けて見ると父親に生写しの顔が写る、お父さん暫くといふので息子は大変喜んだ、それから毎日毎日父親に会つて喜んで居た、トコロが妻君が嫉妬を起した、内の亭主に限つて開んなことをしやうとは思はぬが何だか倉の中へ行つてニコニコ歸つて来る、事に依ると何処か外の女を引摺り込んで居るのではあるまいかと憤怒の相を現はして土蔵の中へ這入つて長持の蓋を開けて見ると果せるかな一人の婦人が這入つて居る、之は怪しからぬと睨めると先方も睨んで居る、妻君は耐らなくなつて且那寺の坊さんの所へ行つて事情を話すといふと、それは夫に開んなことは決してあるまい、お前の心掛が悪い、お前は私の弟子になつて坊主になれと言はれ坊主にたなつて家(ママ)に歸つて、私が悪ふございまして斯様に坊主になりましたと謝りますと言つて土蔵の二階へ行つて長持の蓋を開けて見ると先の婦人も坊主になつて居つた、怒つて臨めば怒つて写る、坊主になつて莅めば坊主に写る、己れに不平があり、己れに不満足があつた場合は己れに欠点があつて己れに不満を起すべき原因を造つて居るのであるまいか、生活に困る、俺の働きが足りないのではあるまいか、自分の権利を認められぬ或は自分の義務に欠くる所があるのであるまいか、斯様に自我を責め、己れの努力が足りないといふ自覚のあ

ることに依て初めて坊主に写ることもあれば天女に写ることもあると思ひます、私は之を不断から誠意努力主義と名付けて居ります、誠意許りあつても努力が足りなかつたり、努力ばかりあつても誠意が足りなかつたら駄目である、誠意と努力とを以て自分を責めましたならば、国際關係に於きましても、個人生活に於きましても、將た又經濟問題に於きましても決して人後に落つるやふなことは無いと信じます、誠意と努力、私は此語を国民の間に提唱致しまして諸君の御判断を願ひたいと存じます(拍手)